

特集

救命救急スキル 便利帖②

すぐに役立つC, D, E

特集「救命救急スキル便利帖」シリーズの前半にあたる前号、2017年7月号はいかがでしたでしょうか？

本特集では、“ABCDEアプローチ”のなかで異常の発見、安定化の文脈で行われるようになってきた救急初期診療での検査や処置を、コンテンポラリーな「救命救急スキル」として、2号連続でまとめています。

前号では“A（気道）、B（呼吸）、C（循環）”を取り上げ、後半となる今号では“C（循環）、D（中枢神経）、E（環境・体温）”にかかわるスキルを中心に取り上げました。モニタリング（循環、神経、内圧）から治療（不整脈の電気的治療、REBOA、開胸、上部消化管内視鏡、IVR、緊急血液浄化）、整形外科的手技（腰椎穿刺・神経ブロック、骨折などの整復・牽引）、そしてそれらの介助法までを網羅しています。いずれもERや救命救急センターでの初期診療～集中治療を通じて必要となる、現在の救急医としておさえておきたい内容ばかりです。

写真やイラストも豊富に用いて実践的に、「いつでも」「どこでも」「すぐに」、何かのときに役に立つ、現場目線の特集を目指しましたので、検査や処置に夢中な若手から、現場に熱心な指導医まで、幅広く活用していただければ何よりです。ぜひ、前号と2冊揃えてお役立てください。

『救急医学』編集委員会

企画担当委員：親樹会恵泉クリニック 太田 祥一